ふるさと歴史散歩

〔第106回〕出合清水が今出川清水で、今出川清水が出合清水　その一

町内に残る古い地名、とりわけ山谷や河川、湧泉などの自然地形に付けられたものは、現代の行政上の観点から付けられた名前と違って、長い歴史のなかでその地域の人々の生活や文化に密着していたものが多い。

石井城一丁目の住宅地の一角に「出合清水」と呼ばれる湧泉がある。これは、ここから約１．５km離れた榎川の伏流水が地下を通ってこの地に湧き出た湧泉である。この湧泉は畳６枚分の地に岩の間から湧く水源部（飲用）と、２つの洗い場に分かれ、昭和60年代ころは地元住民の生活用水として利用されていた。特に、この湧泉を環境庁が全国「名水百選」に選んだ頃には、広島市内の喫茶店の人がポリタンクを持参して汲みに来ていたことが新聞報道にあったが、その後、水質が悪化して飲用に適さず、今では利用する人がいない。ちなみに地元の古老は、この湧泉を「東川」、「東川の池」、「東屋」と言っていた。

一方、「今出川湧水」は石井城一丁目の宮崎商店の横にある。湧水は道より低い土地に井戸状で蓋をしてあり利用出来ない。

結論から言えば、名称が間違っているのだ。正しくは、出合清水が今出川清水で今出川清水が出合清水である。何故そうなったのか。先ずは１８７年前の江戸時代の記録から紹介しよう。

この二つの湧泉は、江戸時代後期の文政８年（１８２５年）に広島藩が編纂した『芸藩通志』に紹介されていることが知られている。『芸藩通志』にどのように記載されているのか。巻四十、安芸国安芸郡　五　古蹟名勝の条に「出合清水　国内の勝区を詠ぜし歌とて、いひ伝る歌あり、安芸の国、出合の清水、鷺の森、阿弥陀がみねに、厳島山（一部省略）」とあって『芸藩通志』の記事だけでは、出合清水、今出川が府中のどの場所か特定出来ないが、「府中村」の地図には、中央に国廳、その右側に出合清水、左側に今出川が明記されており、惣社（総社）に近い方が出合清水である。

府中町文化財保護審議会会長
横田　禎昭

現在の出合清水（本当は、今出川清水）

正しいごみ出しにご協力を

府中町環境センター（八幡四丁目1-1）　☎286-3266

ごみの特別収集

午前8時30分までにごみステーションに出してください。

10/8（月/祝）	普通ごみ（月・木曜日収集地区）
	有価物（月曜日収集地区） 新聞・雑誌、ダンボール、衣類、ビン・缶・金属類

※環境センターへのごみの持ち込みは、受け付けていません。

庭木を剪定したら

◆庭木を剪定した枝は50cm以下に切って、30cm以下に束ね、普通ごみに出してしてください。（一度に2束まで）

◆小さな枝、草や葉は中身の見える袋に入れて出してください。（一度に2袋まで）

有価物（衣類）について

10月は、衣替えのシーズンで、有価物（衣類）が多く出ますので、次のことに注意して出してください。

◆雨に濡れるとカビが発生しやすくなり、再利用できなくなりますので、袋の口をしっかりと閉めるか、天気の良い日に出してください。

◆次のものは、有価物（衣類）ではありません。
それぞれ、当てはまるごみの種類の日に出してください。

○布団・毛布・座布団→大型ごみ
○クッション・枕・ぬいぐるみ→普通ごみ
（30cm以上は大型ごみ）
○靴下・手袋・布製カバン→普通ごみ

ごみの不法投棄は、犯罪です！
不法投棄を目撃した人は、警察に通報してください。

ごみを出す時間に気をつけてください！
前日の夜や早朝に出すとカラスが見つけて荒らすことがあります。